

令和6年度 島根県学力調査結果及び分析

松江市立古志原小学校

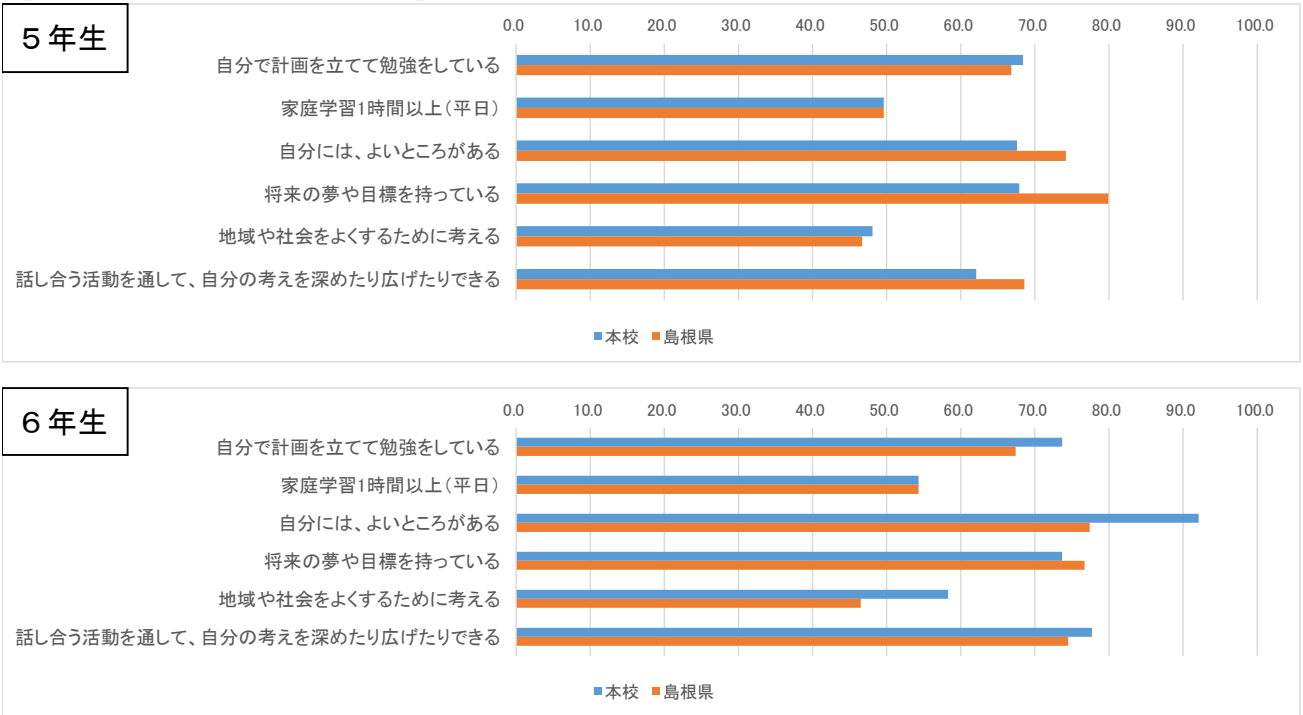
【1】「教科に関する調査」結果から見られた成果と課題（○成果／●課題）

	5年生	6年生
国語	○話すこと・聞くことに関する正答率が目標値よりも上回り、授業中の話合いの成果が感じられる。言語文化の領域が目標値よりも上回った。 ●「文章を書く」問題の正答率が目標値よりも下回っており、日記や作文など書く経験を増やしていく必要がある。	○話すこと・聞くことに関する正答率が目標値よりも上回っており、普段の授業の中で児童を中心に話し合って解決する授業スタイルの成果が見られる。 ○「漢字を読む」正答率が目標値よりも上回っており、普段の授業での音読や漢字学習の取組や、家庭学習の成果が見られる。 ●「言語文化」の領域が目標値よりも下回っており、敬語を話す場を確認したり、季節折々の話題を授業に取り込んだりする必要がある。
算数	○データの活用の領域の正答率が前年度よりも上回っており、問題解決型の授業展開をしたり、実生活に役立つ数値を扱った資料を扱ったりした成果が表れている。 ●「変化と関係」の領域に苦手さがあり、数量関係をもとに自分で図や絵を書いて理解する機会を増やす必要がある。	○「データの活用」の領域が目標値よりも上回っており、電子黒板や黒板に表を書いて説明した ●図形領域が目標値よりも、低かったため、具体的な物を見せて説明したり、図を書いたりする機会を増やす必要がある。

【2】「意識調査」結果から見られた成果と課題（○成果／●課題）

	5年生	6年生
意識	○学習に辞書を使う割合が高かったり、新聞の記事を読んでいる割合が高かったりする。総合的な学習の時間において、地域や社会を念頭に置いた活動を続けてきた成果だと考えている。 ●「睡眠不足にならないようにしている」という割合が下回っている。基本的な生活習慣は整っているものの、寝る時間が遅い児童が多い。生活リズムを整えていくことが課題である。	○基本的な生活習慣は、県平均よりも上回っており、日常生活の基盤が整っている。 ○本や新聞を読んでいる児童の平均が上回っており、児童の興味・関心を大切に授業づくりが効果を出していると考えている。 ●学校で使うものを自分で用意している児童の割合が下回っている。保護者が熱心な一方で児童のやることを先回りしてしまっていることがあると考えている。自分でできることは自分でする習慣づくりが課題と考えている。

【3】「意識調査に関するデータ」（教育委員会として注目している項目のうち全国調査と同様の質問項目を挙げています）



【R6学力調査受検者数】

5年生

94

名

6年生

103

名

(欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は最少の受検者数をもって表示)